

2016年3月期 第3四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2016年1月29日



東証第1部：6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。



表紙の右イメージ図は、1912年、アンリツの前身、安中電機が製作した元祖スマホとも呼ぶべきTYK無線電話機です。

(ノート部記載なし)

目次

I. 2016年3月期第3四半期 業績概要

I - 1. 事業概要

I - 2. 連結決算概要

I - 3. 2016年3月期 通期業績予想（連結）

II. その他

II - 1. 当期利益とDOE 5年間の推移

II - 2. T&M事業 FY2016以降の取り組み

(ノート部記載なし)

I - 1. 事業概要



(セグメント別売上比率) 2015年3月期 実績(連結) : 988億円

T&M 74%			PQA	その他
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%	16%	10%

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 15%	アジア、パシフィック 35%	米州 30%	EMEA 20%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

I - 2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

セグメント	2016年3月期第3四半期（4月-12月）の状況
▶ T&M：モバイル市場は投資抑制が続く	
モバイル	チップ・端末ベンダーの設備投資抑制継続
NW	光デジタル関連への設備投資堅調
エレクトロニクス	モジュール開発・業務用無線で回復基調
アジア	モバイルのR&D需要は増加するも、 製造設備の更改需要は鈍化
米州	通信キャリアの建設投資抑制が続く
▶ PQA：国内コンビニ市場中心に設備投資が増加	

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision: ensure

5


Financial Results FY2015Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業は、モバイル市場において、全般的に顧客の投資抑制が継続しています。その中でも、アジアを中心にLTE-Advanced開発用計測器の需要が増加する一方で、中国端末ベンダーの製造用設備投資に、一層の抑制傾向がみられました。

ネットワーク・インフラ市場においては、データセンター向け光モジュール開発・製造で用いられる光デジタル関連計測器の需要が堅調な一方、北米通信キャリアのLTEネットワーク建設投資抑制が継続しています。

プロダクツ・クオリティ・アシュアランス(PQA)事業は、国内・海外市場とも増収基調が継続しています。とりわけ国内においては、コンビニ市場を中心に、多様な加工食品市場で新製品が設備更改需要を捉え、売上を伸ばしました。

I - 2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

 売上は前年並みを確保するも、受注進捗は前年を下回る

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	738	699	△ 39	△ 5%
売上高	718	722	4	0%
営業利益	73	52*	△ 21	△ 29%
税引前利益	80	51	△ 29	△ 36%
当期利益	56	39	△ 17	△ 30%
当期包括利益	94	42	△ 52	△ 55%
フリーキャッシュフロー	9	△ 7	△ 16	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*リストラ費用約5億円含む

グループ全体の受注高は前年同期比5%減の699億円、売上高は前年同期と同水準の722億円となりました。営業利益は前年同期比29%減の52億円となりました。

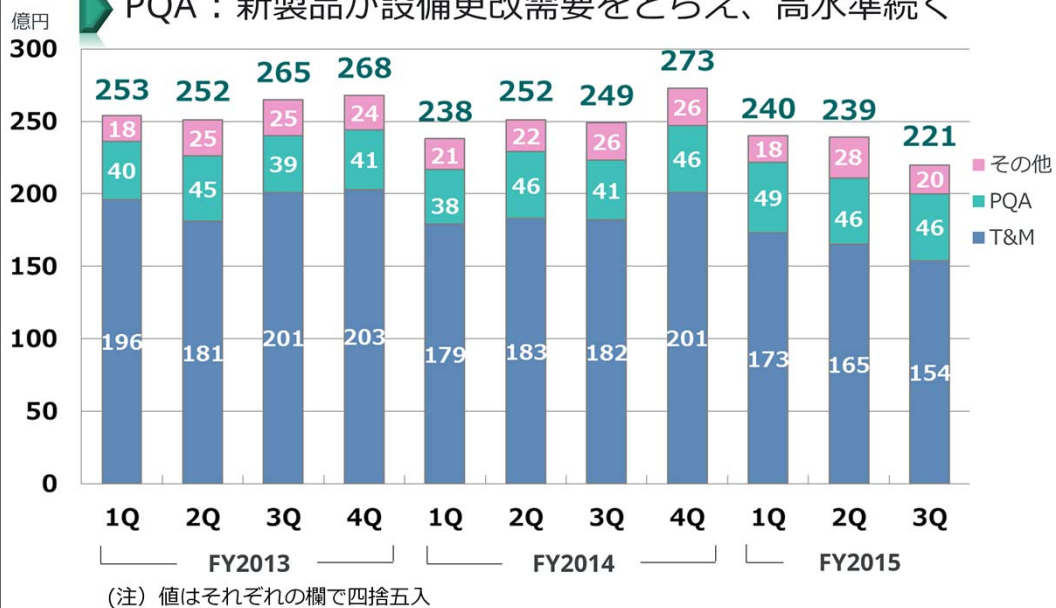
第2四半期と第3四半期で、北米と欧州において組織体制の最適化策を実施した結果、営業費用にリストラ費用5億円を計上しています。

当期利益は、前年同期比30%減の39億円、包括利益は、前年同期比55%減の42億円となりました。

フリーキャッシュフローはグローバル本社棟の建設費用の支払いなどもあり、7億円のマイナスとなりました。

I - 2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

- ▶ T&M：投資抑制が継続し、第2四半期比6%減少
- ▶ PQA：新製品が設備更改需要をとらえ、高水準続く



Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2015Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業の第3四半期受注高は、前年同期比15%減の154億円となりました。モバイル市場においてスマートフォン製造用計測器の需要減退が続いていることに加え、北米キャリアがLTEネットワーク建設をはじめ設備投資を抑制しています。

PQA事業の受注高は、弁当や惣菜を扱う国内食品ベンダーを中心に、設備更改需要を新製品がとらえ、前年同期比13%増の46億円となりました。

I - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	547	527	△ 20	△ 4%
	営業利益	65	48*	△ 17	△ 27%
PQA	売上高	112	137	25	22%
	営業利益	2	9	7	462%
その他 (含：内部消去)	売上高	60	58	△ 2	△ 2%
	営業利益	6	△ 5	△ 11	-
合計	売上高	718	722	4	0%
	営業利益	73	52*	△ 21	△ 29%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*リストラ費用約5億円含む

T&M: Test & Measurement

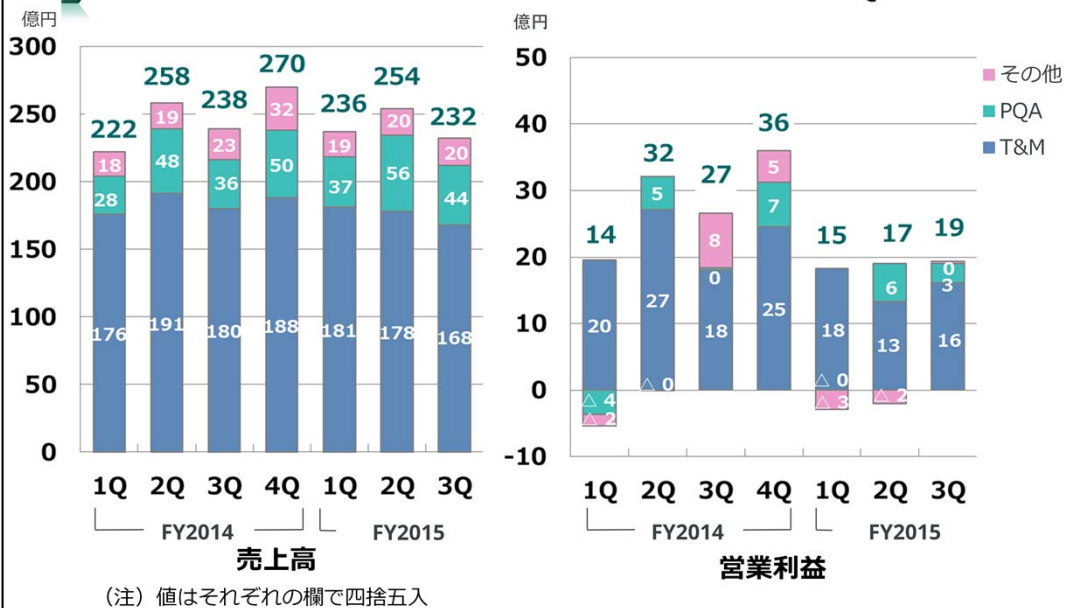
PQA: Products Quality Assurance

T&M事業は減収減益となり、営業利益率は9.0%となりました。
営業費用に、海外でリストラ費用5億円を計上しています。

PQA事業は増収増益となり、営業利益率は6.4%となりました。

I - 2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第3四半期の営業利益率 8.4% T&M 9.5% PQA 6.7%



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2015Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

第3四半期の連結及びT&M事業、PQA事業の営業利益率はそれぞれ

連結 8.4%

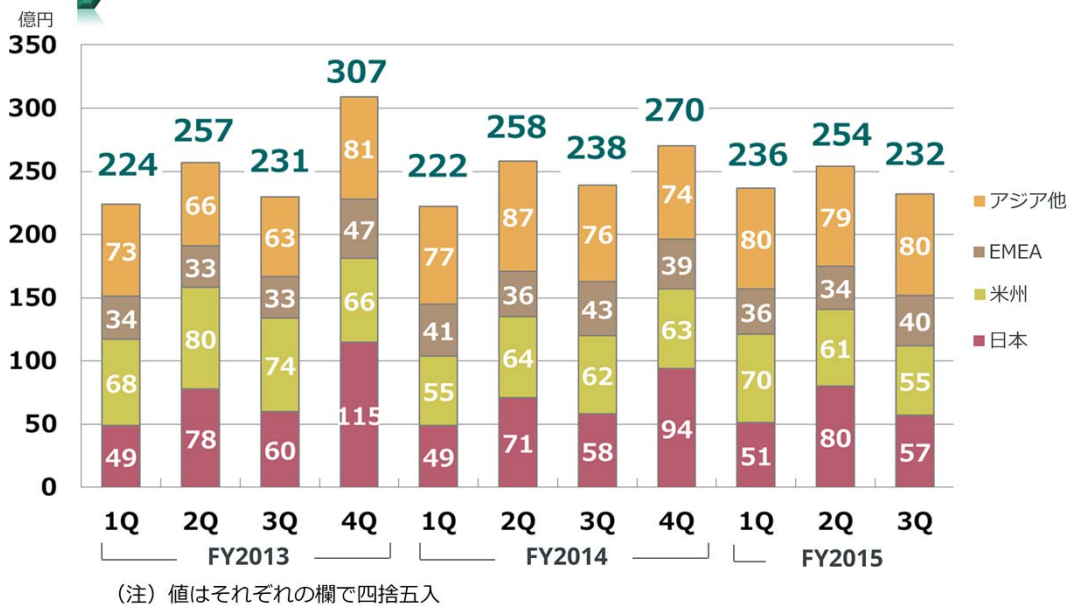
T&M 9.5%

PQA 6.7%

となりました。

I - 2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

▶ 前年第3四半期比、アジアで増収



アジア市場は前年同期比6%の増収となりました。T&M事業において、モバイル開発用計測器の需要は増加したものの、モバイル製造用計測器の需要は減少しています。

米州市場は同12%、EMEA市場は同6%、日本は同1%の減収となりました。

I - 2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 営業CFマージン率9%

FY2015 Q3 (累計)

- ①営業CF： 66億円
- ②投資CF：△ 72億円
- ③財務CF： 24億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)：△ 7億円

現金同等物期末残高

367億円

有利子負債高

220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

		内訳	(単位：億円)
売上債権	37		借入金 30
減価償却	29		社債 80
税引前利益	51		
たな卸資産	△16	設備投資 △19	借入金返済 △50
税金	△17	BCP関連 △43	配当金 △33
その他	△15	その他 △10	その他 △0
仕入債務	△4	自己株式 △2	
営業CF	66	投資CF △72	財務CF 24

営業キャッシュフローは、主に売上債権の回収増により、66億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローの72億円の支出には、厚木サイトの新棟「グローバル本社棟」の建物関連費用43億円の支払いが含まれます。

その結果、フリー・キャッシュフローは7億円のマイナスとなりました。

財務キャッシュフローは24億円の資金獲得となりました。主なものは社債の発行による80億円(償還期限:2020年6月,格付けA-)の調達、銀行借入金の返済(ネットで20億円)、配当金の支払い33億円(1株配当:12円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より18億円増加の367億円となりました。

I - 3. 2016年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 連結売上利益業績予想を下方修正

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		2015/3期	2016/3期			
		前期実績	通期予想		前期比	
			4/27発表	今回	増減額	増減率(%)
売上高		988	1,030	980	△ 8	△ 1%
営業利益		109	110	72	△ 37	△ 34%
税引前利益		116	109	70	△ 46	△ 40%
当期利益		79	80	50	△ 29	△ 37%
T&M	売上高	734	750	700	△ 34	△ 5%
	営業利益	89	90	60	△ 29	△ 33%
PQA	売上高	162	180	190	28	17%
	営業利益	8	11	12	4	46%
その他 (含：内部消去)	売上高	92	100	90	△ 2	△ 2%
	営業利益	11	9	0	△ 11	△ 100%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入 （参考）第4四半期 想定為替レート：1米ドル115円、1ユーロ=130円

Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2015Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

2015年度の通期業績の見通しは、4月27日に発表した計画を変更します。変更する理由は次の通りです。

T&M事業において、スマートフォン製造市場の急速な成長鈍化や北米におけるLTEネットワークの建設投資抑制が、大きく影響しています。

このような状況の下、LTE-Advanced開発関連需要を取り込むことで受注回復に努めましたが、顧客の投資動向に上半期の状況から大きな変動はなく、第3四半期の受注額は計画を下回る水準となりました。この結果、通年で売上が下振れる見通しとなり、売上高・営業利益について下方修正します。

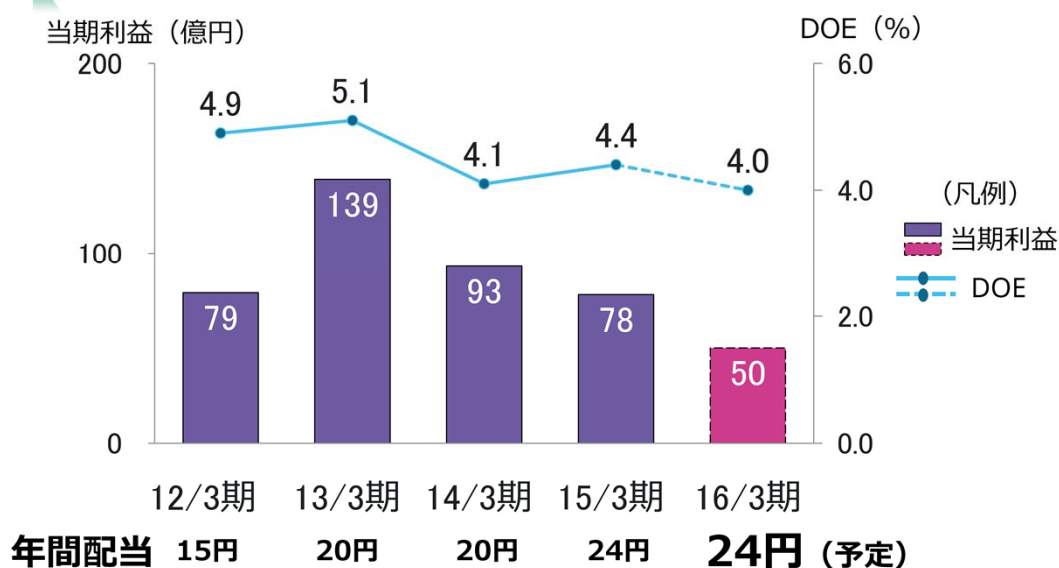
PQA事業は主に国内コンビニ市場を中心に異物検出機などの売上が好調に推移しているため、売上高・営業利益の見通しを上方修正します。

その他事業の見直しも含めて、全体としても売上高・営業利益を下方修正します。

税引前利益、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益の修正、および2016年度税制改正に伴う法定実効税率の変更による繰延税金資産取り崩しの影響等を織り込んで修正しております。

II - 1. 2016年3月期 配当予想

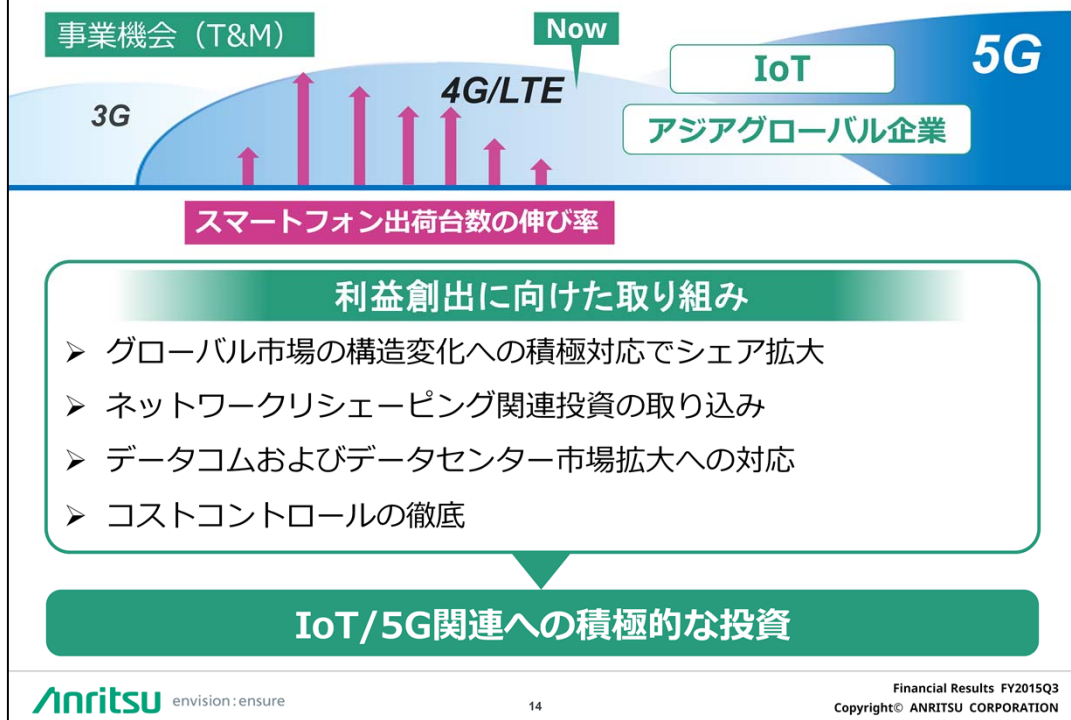
▶ 配当予定は変更なし（年間24円：うち期末配当12円、DOE4%）



今期の配当は、株主の皆様の日頃のご支援とアンリツ創業120年の長きにわたる企業継続へのサポートにお応えするため、1株当たり年間24円（うち期末配当12円）を予定しております。

当社は、株主の皆様に対する利益還元について、連結業績に応じるとともに、総還元性向を勘案した利益処分を行うことを基本方針としております。剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることを基本にしつつ、連結配当性向25%以上を目標としております。

II - 2.T&M事業 FY2016以降の取り組み



LTEの普及拡大に伴い、成長を続けていたモバイル市場の既存マーケットの設備投資には、抑制傾向がみられます。一方、アジア地域ではグローバルに活躍する新たな企業が台頭してきています。世界中に広がったLTEネットワークは、新しい社会イノベーションのインフラとして、切れ目なく5Gに向けて進化を続けていきます。利益創出に向けた取り組みを着実にを行い、IoT/5G関連への積極的な投資を継続します。

